

慶應元年春五卿赤間驛滯寓事情大略左如レ

當時五卿トハ

正二位中納言 三條西季知卿 五十四才

從三位中納言 三條實美卿 廿九才

正四位下近衛少將 東久世通禧朝臣 三十三才

從四位上修理權大夫 壬生基修朝臣 三十一才

從四位下侍從 四條隆調朝臣 三十八才

元治元年十一月陰曆五卿ハ周防國山口ヨリ俄ニ移テ長府ニ至リ功山寺ニ

寓ス是レ長州萩城ニ於テ俗論竟權勢ヲ得テ五卿尊王忠誠

素志ニ反スルヲ以テ長ク山口ニ留マルト能ハス長州人中五卿ト志ヲ同スル
志士諸隊士ノ請ボニ依ルナリ

長府滞在中幕府ヨリ毛利家ニ命シ五卿ヲ九州ニ轉寓セシメ又九州

五藩 筑前、肥後、細川、薩摩、
島津、肥前、鍋島、筑後、有馬ノ五家ニ命シテ之ヲ預リ保管セシム

但シ五卿ニ於テハ幕府ノ命ナリトイヘテ謂レテ長州ヲ立去ルヘカラス又長

州諸隊ニ於テモ固ク之ヲ留ム然レニ萩ノ俗論派ニ管幕府ニ恭順シ其

命ニ反センコトヲ恐レ五卿ニ渡海ヲ勸メテ已マス是ニ於テ五卿ハ頗ル其進退ニ

迷ヒ尤モ死生ハ固ク論スル處ニアラス唯如何ニセバ即尊王攘夷ノ素志ヲ貫

徹スルコトヲ得ヘキヤニ在リ又筑前ヨリハ里田家ノ使者月形洗藏筑紫衛

早川養敬外数人長府ニ来リ五卿ニ謁シ一旦筑前ニ渡海セシコトヲ勸ム

10 伊勢屋製

其言フ處ハ今強テ長州ニ御淹留ナルトキハ長州ニ於テモ頼

迷惑ニ感じ五卿モ亦其臣下タル諸隊ヲ率ヒテ其君主ニ反抗

セシムルニ當リ大義名分ニ於テ頗ル妙ナラス且筑前ニ渡海ナレハ

黒田家ハ勿論特ニ薩州藩外ニ藩トモ申合セ必ス五卿ノ素

志ヲ貫徹セシムルコトニ盡カスヘシトノコトナリ是ニ於テ五卿及隨

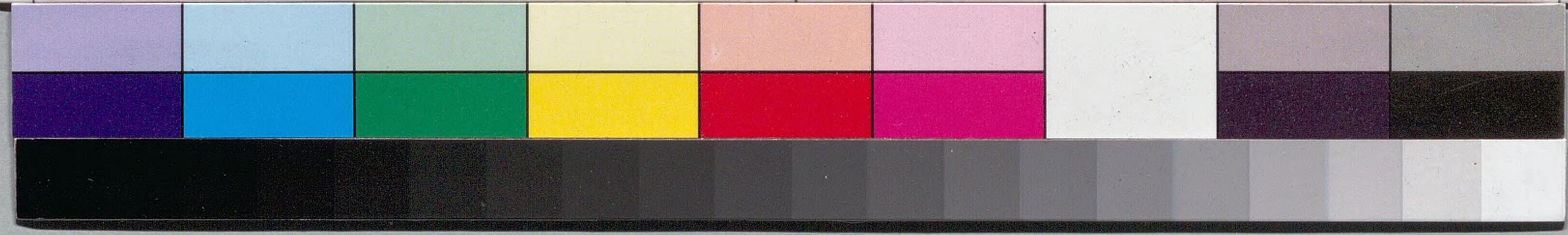
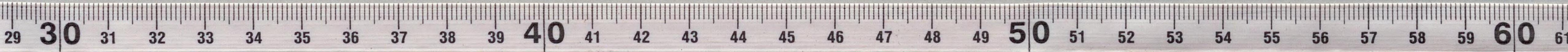
従ノ志士等日夜其是非曲直ニ付互ニ激論アリ事容易ニ決

セス然レニ此間ニ於テ五卿等ハ密ニ薩摩ノ志士西郷吉之

助カ深ク三條公等ニ心ヲ寄セ将来朝憲回復ニ付テハ是非

此人々ト謀ラサレヘカラスト深ク信賴スル旨ヲ聞キ終ニ意ヲ

決シテ筑前ニ渡ラシトス然レモ輕々ニ快諾セズ先ニ黒田侯ノ
重役ノ来リ迎ヘシコトヲ要ス則黒田家ヨリ重臣熊澤三郎
右衛門及帆足弥次兵衛等迎ヒ来リ依テ五卿方ノ素志ニ

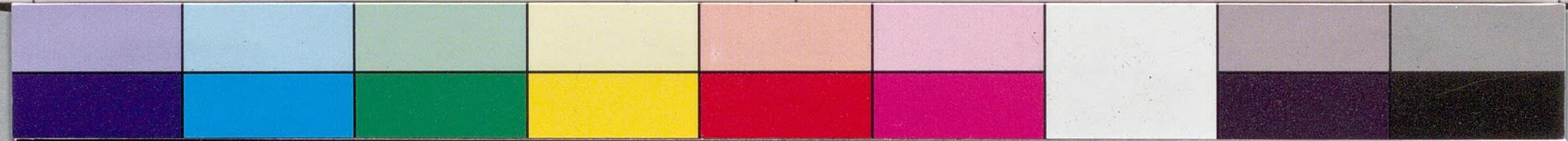
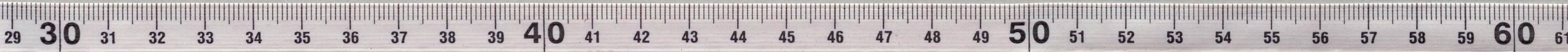


依リ皇朝^憲及正回復及征長軍解散毛利家安堵等ノ事
ヲ斡旋盡力し且五卿ノ待遇等都テ長州侯ノ為セし通り
ニスヘシト誓書ヲ出サセ此間議論百出殆月餘ニ亘ル或ハ
カニ甘言ニ欺カシ長州ヲ離シタラハ其災殃此實ルハカラス或
ハ承久ノ古事ノ如ク大死ニ歸スルモ知ルハカラスト論スルキアリ
然レモ五卿等ハ西郷ノ一言ヲ聞キ深ク信スル所アリ終ニ異
論ヲ排シ終々慶應元年正月十四日ヲ以テ長府ヨリ渡海ノ
事ニ決ス然レモ諸隊志士中未タ十分ニ此内情ヲ知ラズ若シ
五卿ニシテ長州ヲ去ラハ或ハ正義ノ道遂ニ湮滅セシト恐
レ只菅五卿ヲ抑留セシト欲シ或ハ其渡航ノ際密ニ水練ノ
達士教各ヲ海底ニ潜ラシメ稍々安全ノ場所ヲ見計ヒ夜ニ
乗シ五卿座乗ノ船底ニ穴隙ヲ穿テ其傾覆セシトスルヲ救ヒ

根本製

前田春向ノ着示
三ノ講述ス
次ハ中ノ和ヨリ初ム
ベシ

他船ニ移シ再ニ長州ニ復舊セント謀ル者アリトノ流説アリ
其危漢言フヘカラス依テ教雙ノ艦船中五卿ノ座乗ニ供スル
モノハ苦ノ上ニ紫縮緬ノ幕ヲ張リ之ヲ御座船ト云フ從者雜
人等ノ船ハ只藁草ヲ覆フノミ之ヲ供船ト云五卿ヲ故ラシ此
供船ニ座乗セシメ從者雜人等ハ却テ御座船ニ乗リ危漢ヲ
避ケ其夜彦島ニ停泊ス筑前ヨリ重臣久野四郎兵衛巨船
教艘ヲ儀装シ以テ之ヲ迎フ五卿等之ニ移乗シ十五日午后
黒崎ニ著ス黒田家ヨリ接待負来リ先ツ黒崎客館ニ請ス
同十八日更ニ轉シテ赤間驛ノ客館御茶屋ニ移寓ス此所ニ
暫時寓居セラル此間ニ種々困難ノ事件起ル先ツ第一渡海
前長府ニ於テ五卿ハ筑前黒田侯ノ意ヲ以テ其重臣ヲ以テ
誓約セシメタル條件ニ及シ五卿ヲ遇スルコト殆ト囚人ノ如シ翌日



其參政ノ一人加藤司書来リ帶刀ノ儘五卿ニ面シ其禮甚
倨ル飲食起居總テ平人囚徒ノ如ク五卿等其前約ミ及スル
ヲ怒リ之ヲ詰シハ藩吏等曰ク五卿等昔ハ高位高官ノ人ナリ
シモ近來官位ヲ褫奪セラレタシハ余ク平民ナリ故ト斯ノ如シ
ト且五卿ト言ハスレテ五人ノ者ト云長州ニテハ專ラ五卿ト稱
シ貴賓ヲ以テ待遇シ飲食器具皆白檜三寶ヲ用ヒ日常
器具皆之ニ準ス筑前ニテハ普通旅人ト供スル膳部棧ヲ用
ヒ外皆之ニ準ス **我ト同様に扱**
又客館ノ門戸ヲ鎖シ外ヨリ錠ヲ施シ番兵ヲ附シ五卿主従ノ
外出スルヲ許サス余ク囚人ノ如ク然リ
又五卿ヲ離隔シ互ニ相面セシメサラントス則三條ヲ赤間ニ留メ
三條西ヲ山田村増福寺ト移シ東久世ヲ高倉村神傳院ト至

根本製

生ヲ凌巖寺村正法寺ニ四條ヲ吉田村鎮國寺ト移シ五藩各
々之ヲ監守セントス五卿主従之ヲ憤慨スルコト甚シ或ハ長府
ニテ端セシ者ノ如ク奸徒ニ欺カレ此厄ニ陥リタルト非スヤ或ハ幕
府ノ手ニ渡サレ承久ノ昔日野濱朝卿坊城俊基朝臣ノ
西復轍ニ非ラスヤト切齒扼腕ス去リナカラ若シ右様ノ運命ト瀕ス
曉ニハオノク俗吏等ノ所置ニ服従スヘカラスト各々心死ヲ極メ
此時ニ常藩別藩士并東京即在衛門池田次郎兵衛西田
彌中郎并来リ謁スル會フ此情況ヲ視テ驚キ急キ本陣ニ帰
リ五卿救護ノ道ヲ謀ル

此災厄ハ余ノ根據ナキ杞憂ニ非ザルコトハ左ノ幕府ノ命令ニ依リテ知ルヘシ
慶應元年正月五日幕府ハ大監察大久保紀伊守山口駿河守ヲ征長總
督尾張大納言廣島ノ本營ニ差シ在命令書ヲ渡ス

一毛利大膳父子江戸表、指し下之事
一三條以下七人江戸表、指し下之事
但し商人數より途中警衛ノ事
一六膳家来ト急度為相慎置キ所下知相待候様吉川初末家ト一
中達可被成事

右ノ通所外ハ 可被成事

同 二月六日幕府更ニ大監察駒井甲斐守ニ命シ長州ニ至リ毛利父子
及三條以下ヲ召サシム其達文ニ曰ク

毛利大膳父子服罪ニ付當地ニ被召寄候途中警衛儀ハ尾張
大納言殿ヨリ人數御美至キ旨候云

毛利父子若三條以下處分儀付大久保紀伊守山口駿河守ヨリ被仰
出候(中略)三條以下ノ者共ハ松平美濃守黒田初メ面々ノ家来家来ニテ警

又右藩勤王ノ諸有志者名之其本國ニ追ヒ追ヒモ右其國法ニ依リ
處分セシムシトノ旨アリ若シ此年一行ハモノ事ハ

根本製

島扶持ハ
毛利納先
賊金ノ以テ
セシム

其軍命ハ大板推知スハ大方ニ死刑ニ處セラレシナリ
上方南部ホモノ厄ナクシナリ

衛イタシ差シ越シ候様夫ニ被仰付候事

此時ニ苗リ薩河藩士三原次郎左衛門池田次郎兵衛西田彌四郎等来リ
謁スニ會フ此情况ヲ視テ警キ急ニ本國ニ帰リ五柳放護ノ道ヲ謀ル



毛利大膳父
江戶家
二條
但
速
急
天
置
待
末
中
右
事

後
前
者

又一面長州ニ正義ノ諸隊俗論虎ノ戰ヒ之ヲ破リ萩城ニ入り毛利
家君臣全ク反正舊情ニ復シ報ヲ得テ大ニカヲ得タリ

教日ヲ経テ西郷吉之助薩州ヨリ来リ此情形ヲ見テ大ニ驚キ急ニ福
岡ニ赴キ里田家重役等ニ嚴談シ全ク其待遇方ヲ改メ稍々長州

ニ在リシ時ト同様ニルコト、為リ然ルニ赤間驛ノ地タル一墾阪ノ土地ニテ
甚タ不便ナリ是亦西郷等ノ周旋依リ太宰府ニ遷ルコト、為リ

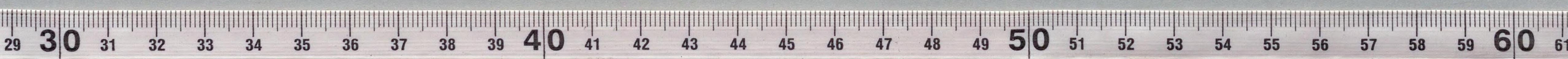
同年二月十二日赤間ヲ発シ途ニ香椎宮ニ參詣シ箱崎ニ泊シ翌
十三日太宰府ニ著シ延壽王院ニ館ス途上三條三條西及壬生三

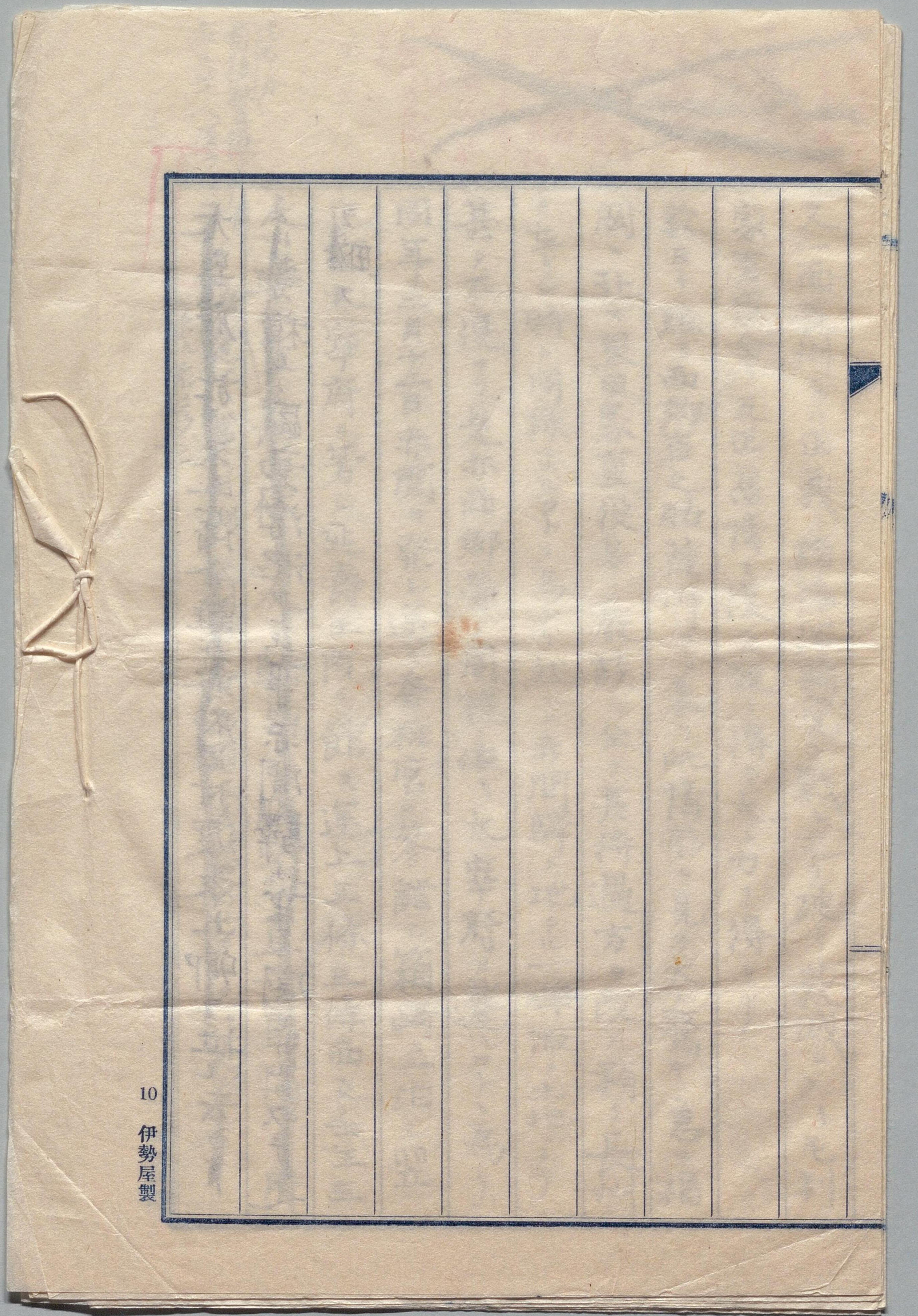
人ハ輿ニ東久世四條ノ二人ハ騎馬ニテ服装ハ直垂烏帽子ヲ用
ユ此邊ニテ常見横シ又行装ニ付治道人民皆稱シカリ之ヲ見シテ

10 伊勢屋製

太宰府ニ於テ又土藩分離幕府目付渡表五卿ヲ拉シ去ラ

ズル等種々盛衰浮沈シテ事未間驛ノ事ニ関セザルヲ以テ之
ヲ略ス





10
伊勢屋製



国立国会図書館 尾崎三良関係文書 154